

第40回鍼灸研修会参加報告
中医薬膳セミナー第1回「体質対応・弁証中医薬膳の話」

講師：西川 修先生は北京中医薬大学卒業の中医師で、'02年には中国厚生省主管の中国世界中華名医論壇委員会より自然傑出人材賞(通称中華名医)を日本人として初めて受賞されました。薬膳セミナー講師としてTV出演、講演、新聞雑誌の執筆等大変多忙かつ有名な先生です。

講演の冒頭では、「大手新聞やマスコミで様々な東洋医学の情報が取り上げられるようになったが、東洋医学知識があるものが読めば、誰でもわかるような“間違った記事”が溢れている。」とのお話があって、二つの事例を取り上げ解説されました。

ある有名雑誌では“漢方薬で体質を改善する”という特集記事の中で、某有名大学の教授が「気逆」の人にシナモン豆乳スープを勧めているが、「気逆は体質ではなく証である。気逆に桂皮(シナモン・桂枝)は厳禁で、補火助陽作用があり、気を下げる作用はなく、逆に気を挙げる作用をもつ生薬である」と解説されました。

次に大手新聞の記事で某有名東洋医学系研究所所長発言のあきれするような間違いだらけのコラムを挙げて、東洋医学の記事では見る目を養うようにと熱く語られました。

又、日本で広く言われている所謂“薬膳”の多くは間違っって伝えられていると。“薬膳”とは正式には“中医栄養学に基づいて作られた食べ物”をいい、個々の患者さんの体質に合った食材と調理法があるので“弁証論治をして証を立てたうえで処方すること”これが本物の薬膳料理である。という内容を解りやすく身振り手振りとうーモアを交えて語って頂き、大変楽しく有益な講義でした。

第1回の今回は総論的な内容でした。来年1月18日に開催される第2弾は各論としての体質に応じた薬膳の解説がされる予定です。

正しい治療をしても日常の食事が乱れ、体質に合わない食事をしていては、鍼灸治療の効果も半減すると西川先生がおっしゃっていました。

食養生の正しい指導ができる見識ある鍼灸師目指して一緒に勉強しましょう。

学術部 長岡 亨